

武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室

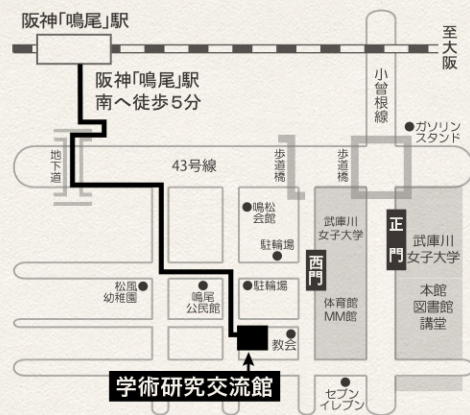
2019年度 秋季展覧会

ハレの日の きもの

—近代の裾文様—



刺繍花籠文様丸帯



武庫川女子大学
学術研究交流館5階ギャラリー
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46
tel.0798-45-3509
阪神電車「鳴尾(武庫川女子大学前)」徒歩5分



平成31年度文化庁 地域の博物館を中核としたクラスター形成事業
「ようこそ大学ミュージアムへーつながる・つなげる・つながるー」かんさい大学ミュージアム
連携実行委員会(事務局 関西大学博物館)

令和元年

9月18日(水)～11月20日(水)

開館時間：10:00～16:40

休館日：土曜・日曜・祝日(10月22日も閉館)

入館料：無料

場 所：武庫川女子大学

学術研究交流館5階ギャラリー

主催：武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室
共催：かんさい大学ミュージアム連携実行委員会
協力：大阪大谷大学博物館、大阪商業大学商業史博物館、大阪大学総合学術博物館、
お茶の水女子大学、日本女子大学、宮城学院女子大学

2019年度 秋季展覧会

ハレの日の きもの

— 近代の裾文様 —

ハレの日のきもの定番に、裾文様の着物があります。若い女性の振袖や婚礼衣装と年配者の留袖、外出用おしゃれ着の訪問着。誕生から成人に向かう通過儀礼にも裾文様の祝着が着られます。伝統の意味が希薄になり、思うがままに着飾ようになった現在も、この裾文様が儀礼の場に受け継がれているのです。裾文様を愛でる服飾の美学はどういうところにあるのでしょうか。近代の多彩な裾文様に探りたいと思います。



鶴松文様婚礼衣装

関連企画

オープニング

9月18日(水) 12:30～

場 所:学術研究交流館1階ホール

あいさつ……河合 優年(副学長)

趣旨説明……横川 公子(当準備室室長)

展示品解説…樋口 温子(当準備室学芸員)

参加費無料(事前申し込み不要)

ワークショップ

場 所:いずれも学術研究交流館1階ホール

参加費無料(要事前申し込み)

①河内木綿を体験する

9月25日(水) 14:00～16:00

講 師:中井 由榮(河内木綿コットン・クラブ代表)

牧野 保代(鳴尾木綿・綿伝承人)

定 員:20名

江戸期から明治期にかけて、河内地方で産出された白木綿織物。その生産過程の中から綿くりと糸紡ぎを体験します。

②一隅を切る —和の空間感覚を染める—

10月8日(火) 14:00～16:00

講 師:青野 卓司(武庫川女子大学非常勤講師)

定 員:20名

手ぬぐい(和布)に、樹脂染料によるステンシル捺染を施します。余白の美を意識した和のデザインをぜひ体験してください。

③ミュージアム・サロン

11月14日(木) 14:00～16:00

講 師:佐藤 優香(国立民族学博物館非常勤講師)

定 員:20名

鳴尾界隈は河内木綿の栽培が盛んでした。そのころの伝統が途絶えてしまった今、残された記憶をインタビューによって掘り起こします。併せて和服に関する記憶や体験を発掘します。

申込方法

- ①住所・②氏名(ふりがな)・③電話番号・④参加人数・⑤参加希望ワークショップ名(複数可)を記入の上、メールまたはFAXにてお申込みください。

メール:haku@mukogawa-u.ac.jp

FAX:0798-45-3509

*FAXでお申し込みの場合はお返事いたしません。参加人数を超えた場合・中止の際はご連絡いたします。

ギャラリートーク

展示品解説

9月18日(水) 13:00～13:30

10月23日(水) 13:00～13:30

場 所:学術研究交流館5階ギャラリー

参加費無料(事前申し込み不要)



霞黄秋草文様訪問着

竹文様婚礼衣装(三枚巻の一つ)

鶴亀松竹梅文様祝着

シンポジウム

10月23日(水)

きもの意匠の近代化

基調講演

女学生の制服ときもの

難波 知子(お茶の水女子大学准教授)

パネルディスカッション

登壇者(登壇順)

難波 知子(お茶の水女子大学准教授)

大久保 尚子(宮城学院女子大学教授)

森 理恵(日本女子大学教授)

橋爪 節也(大阪大学共創機構社会学共創本部/総合学術博物館 教授)

コーディネーター

横川 公子(当準備室室長)

受講料:無料(事前申し込み不要)

定 員:70名

時 間:14:00～17:00

場 所:学術研究交流館1階ホール

*開始前(13:00～)、5階ギャラリーにて展示解説会

シンポジウム登壇者プロフィール(登壇順)

難波 知子

お茶の水女子大学准教授

2010年お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了、博士(学術)。専門は、近代日本の学校制服史。主な著書に『学校制服の文化史—日本近代における女子生徒服装の変遷』(創元社、2012)、『近代日本学校制服図録』(創元社、2016)、『ビジュアル日本の服装の歴史③明治時代～現代』(ゆまに書房、2018)など。

大久保 尚子

宮城学院女子大学教授

1995年お茶の水女子大学博士課程単位取得退学後、学位取得。博士(人文科学)。1995年宮城学院女子大学に着任し現在に至る。19世紀から20世紀前期の日本の服飾、染織文化の連続性に関心を持っている。主な著書に『江戸手拭』(共著、2007、ピエ・ブックス)、『江戸の服飾意匠—文芸、美術、芸能との交流と近代への波及』(2015、中央公論美術出版)、『ビジュアル日本の服装の歴史②』(2019、ゆまに書房)など。

森 理恵

日本女子大学教授

徳川美術館、神戸ファッション美術館準備室、金蘭短期大学、京都府立大学を経て現職。専門は日本服飾文化史。近世から近現代における、日本の衣生活について、ナショナルリズム、コロニアリズムやジェンダーの視点から研究している。著書に『桃山・江戸のファッションリーダー 描かれた服装の変遷』(塙書房)、共著に『大村しげ 京都町家ぐらし』(河出書房新社)、『生活の美学を探る』(光生館)など。

橋爪 節也

大阪大学共創機構社会学共創本部/総合学術博物館 教授

1958年大阪市生まれ。東京藝術大学美術学部大学院修了。日本東洋美術史専攻。大阪大学社会学共創本部・総合学術博物館教授(前館長)/大学院文学研究科兼務。著書に『大阪イメージ増殖するマンモス/モダン都市の幻像—』(創元社)、『モダン心齋橋コレクション—メトロポリスの時代と記憶—』(国書刊行会)。北野恒富展、佐伯祐三展、「大大阪モダンイズム展」などの展覧会も企画や監修。

シンポジウムプログラム	
13:00～13:30	5階ギャラリーにて学芸員による事前展示資料解説
13:30～	1階ホールにて受付開始
14:00～14:10	開会の挨拶 趣旨説明 横川 公子(当準備室室長)
14:10～14:45	基調講演「女学生の制服ときもの」 難波 知子(お茶の水女子大学准教授) 明治時代の女学生といえば、海老茶袴の姿が思い浮かぶ。では、袴に合わせて着用された「きもの」はどんなものだっただろう。学校における服装規程の変遷をたどりながら、女学生が着た制服ときものについて考える。
14:45～15:10	提案①「きもの意匠にみる(近代)とく(伝統)—東京中形を中心に」 大久保 尚子(宮城学院女子大学教授) 西洋のデザイン潮流や日本の古典への志向、近世からの意匠観の継承など多面性をもつ近代のきもの意匠は、染織技術革新、生活の変化とも連動している。東京の中形浴衣地を例に、旧来の技法、新興技法の併存状況と意匠の変化をとらえたい。
15:10～15:35	提案②「20世紀前半アジアにおける「きもの」受容」 森 理恵(日本女子大学教授) 日本の帝国主義の進展にともない、日本の植民地や移民の居住先では「きもの」がいろいろなる形で受容された。台湾、朝鮮、シンガポール、インドネシアの事例により、世界史の文脈における「きもの」について考えたい。
15:35～16:00	提案③「美人画ときもの/絵をどう読み解くか、北野恒富の場合」 橋爪 節也(大阪大学共創機構社会学共創本部/総合学術博物館 教授) 近代の画家が「きもの」をどのように絵に描き、自己の世界観を表現したか。画壇の悪魔派とも呼ばれた、大阪らしい美人画家・北野恒富の名作に検証する。
16:00～16:10	休憩
16:10～17:00	討論・まとめ